苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 12 回 定例委員会
日 時	令和6年12月20日 自 15時00分 至 15時54分
場 所	第二庁舎2階北会議室
出 席 委 員	教 育 長 福 原 功 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	岡 田 秀 樹 委員
会 議 録 署 名 委 員	佐 藤 郁 子 委員
会 議 録 作 成 職 員	総務企画課主事 根 田 笑 里
事 務 局 職 員	教 育 部 長 園 田 透 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 東 峰 秀 樹 教 育 部 参 事 荒 関 基 高 学 校 教 育 課 長 江 原 倫 代 総 務 企 画 課 長 下 濱 辰 哉 生 涯 学 習 課 長 河 本 充 教 総 務 企 画 課 主 査 山 口 元 総 務 企 画 課 主 事 根 田 笑 里
会 議 案 件	別紙のとおり
会 議 の 経 過 概 要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（福原教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（佐藤 郁子 委員）
3 会議録の承認
（福原教育長） 第11回定例教育委員会（令和6年11月22日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（福原教育長） 11月22日開催の第11回定例教育委員会以降の主な動きなどについて報告をさせていただきます。
はじめに、今月8日の市長選挙で金澤 俊氏が当選されました。9日に金澤市政がスタートしましたが、金澤市長とは特別職との顔合わせや、庁議等が行われたほか、各部喫緊の課題レクが行われ、教育部では、学校規模適正化と施設整備計画についてのレクチャーとともに、先月の本会議で報告した、総合教育会議の早期開催について申し上げたところでございます。今後は、金澤市長の教育行政に関する市長公約の達成に努めるとともに、私としましては、岩倉前市長と同様に、教育行政の課題認識等について、情報共有と意見交換を重ねてまいりたいと考えております。
次に、11月25日に、第75回苫小牧市民文化祭表彰式が行われました。この文

化祭は市政が施行された昭和23年に始まった歴史ある文化の祭典で、子供から高齢の方まで幅広い年齢層の市民が、短歌、川柳、俳句、書道、絵手紙、詩吟等々の作品が披露されました。市長賞、教育長賞などの表彰が行われましたが、私からは、本市の文化芸術の発展に引き続きお力添えをお願いしたいとご挨拶をさせていただきました。

次に、11月26日から29日までの会期で、第9回市議会定例会が開催されました。今回の議会は岩倉前市長の退任により、市長不在による議会となったため、一般質問は行わず、議案審議と常任、特別委員会の開催となりました。

議案審議では、先月の教育委員会議で報告した、樽前小と植苗小中学校を除くすべての小学校保健室にエアコン設備を設置する教育費予算を含む補正予算が全会一致で決されました。来年6月下旬には設置が完了し、7月上旬には稼働開始となる予定で、子供たちの命を守ることを最優先に、熱中症対策等の緊急避難所として活用いただきたいと思います。なお、中学校保健室につきましては、令和7年度当初予算に計上する協議を続けているところでございます。

次に、11月30日には樽前小学校校舎落成記念式典が行われました。豊かな自然環境に囲まれた新校舎で、地域の皆様の協力をいただきながら、特認校としての特色を生かした新たな樽前小学校として歴史を刻まれることを期待しています。

次に、同じく30日に第48回苫小牧市中学生主張発表大会が開催され、各中学校の代表生徒が、それぞれに現代社会の現状を敏感に感じ取り、家庭や地域社会にまつわること、国際問題や経済の課題、人の倫理観についてなど、限られた時間の中で自身の思いを主張される姿を見て、聴いて、社会の一員としての自覚を感じ、大変頼もしく感じたところでございます。佐藤委員には審査副委員長と講評をお引き受けいただきありがとうございます。私からは、今回の経験は将来の財産になることを伝え、これからも広い視野を持って、それぞれの学校で活躍されることを期待すると挨拶をさせていただきました。

最後に、今日が2024年最後の教育委員会でございます。なお、各小中学校は来

週24日が終業式、来年1月14日が3学期の始業式となります。各学校では、昨年
に続き、猛暑による暑さ対策や今なお続くインフルエンザ、コロナによる学級閉鎖な
どで、学校運営では子供たちの健康管理に苦労が多かった年でありました。

また、岩倉前市長の退任による市長選挙で金澤市長の誕生や、衆議院解散による総
選挙では、与党で過半数とはならない石破政権がスタートするなど、市政や国政で大
きな動きがあった年でもありました。今年も残り10日あまりですが、今年も大変お
世話になりました。皆様におかれましては健康管理に充分留意され、良い年末年始を
お過ごしください。私からは以上でございます。

報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

議案第1号 苫小牧市小中学校規模適正化地域プラン【勇払地区】について

(総務企画課長) 一苫小牧市小中学校規模適正化地域プラン【勇払地区】について説明一

(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(高橋委員) 5ページにありますスケジュールに条例の改正が令和11年度になっ
ていますが、教育に関する条例の何か変更点ですとか新しく作成するですとか
そういうことでしょうか。

(総務企画課長) 条例の改正につきましてですが、小学校中学校の設置条例という
ものがございまして、そのうち小学校と中学校から勇払小学校、中学校を削除して、
新たに義務教育学校として、名称はこれからですけども、勇払地区の義務教育学校の
名称で設置条例に設けるとい改正を予定しております。

(佐藤委員) 9ページの米印で示されている義務教育学校のメリットというところ

で、小中一貫教育や少人数できめ細やかな指導が可能など、メリットについてずっと書いてあるのですが、デメリットはこの逆と考えてもよろしいでしょうか。

(総務企画課長) デメリットにつきましては逆といいますか、人数自体は変わらないということもありまして、既存の小学校中学校別々で存続するよりはメリットの部分が大きくなるのですが、そのデメリットにつきましては児童生徒数自体が変わらない、小規模状態が続くということになるかと思えます。

(佐藤委員) 表現方法でデメリットを書くのは難しいと思うのですが、やはり何らかの形で書いておいた方がいいと思います。人間関係が9年間うまくいけばいいのですが、うまくいかないような心配があるということは多くの方が想像しててでしょうし、体験をしていると思うんです。その辺のところ、デメリットの一つでも二つでもあげておいていただければ理解していただきやすい。質問項目7番のところに、義務教育学校に移行した場合のメリット、デメリットについて理解できましたかという質問がありますから、それを裏付ける意味でデメリットの方を少し文言に注意して、誤解のないようにその人間関係、また情緒的なものとして書かれた方が理解していただきやすいのではないかなと思って伺いました。

(総務企画課長) ありがとうございます。デメリットの記載について検討してまいります。すみません、先ほどデメリットについてお伝えできなかったのですが、小中一緒になって9年間、9年生まで一緒に過ごす一般的なデメリットとして考えられることとして、例えば小学校1年生が9年生(中学校3年生)の子と一緒に活動することによって、委縮したり遠慮したりということも考えられるという、一般的なデメリットとして挙げられているということもございます。

(齋藤委員) 私も今佐藤委員と同じことを、資料をいただいた時に思ったのですが、それに関連して多分これから地域の説明会を行っていく時に、質問事項にこの件が出てくると思います。というのも、勇払地区の方にこの学校区の適正化のことでアンケートを取った、意見を聞いた時に、やはり地域住民の方の一番の懸念材料は長期学校による人間関係の固定化、ほかの同世代の子と切磋琢磨しながら育ち合う環境が

少し希薄だということをととても懸念されていらっしゃる、と私は認識しています。義務教育学校への移行というのはもちろん地域に合った形ではあるとは思いますが、一方で、この点を懸念している方が、義務教育学校になったことによってその部分が解消されるのか。解消されないのであれば、その懸念事項をどのようにサポートしていくのか、ということ質問として教育委員会側に求められると思いますので、その回答をどのように準備していらっしゃるかを事前にお聞きしたいです。

(総務企画課長) 義務教育学校になることにより、確かに今回、移行するにあたってのアンケートではやはり人間関係の固定化など、そういった部分で不安の声もございました。義務教育学校に、小中学校一緒になってですね、上級生と下級生が日常的に一緒に行動するといった、学年間でそういう機会も多くなりますので、そういった部分で学年間では固定するかもしれないですが、より上級生の考えなどを下級生が受け止めて、それが模範となるような、こうなりたいとかそういった気持ちも出てくる部分についてはプラスと考えておりますし、教職員も中学校の教員と小学校の教員ということで、関わる人数というのも多くなりますので、より多くの大人、教員と触れ合うというところで、社会性という部分も今の形態よりはプラスに働くと考えております。

(齋藤委員) 植苗地区も同じような問題を抱えていて、実際義務教育学校になって新しい学びの形ができてると思うのですが、植苗も同じような問題を抱えていると思うのです。その結果植苗の保護者の方や、お子さん達がどのように捉えてるかという考えを聞く機会があったのか。もしそういうデータがあって、小規模校の、子供の数が少ないエリアであっても、義務教育学校になったことによって希薄な人間関係が、上下の関係が、先生方との関係が良くなって、前よりいい面があったというデータがもしあるのであれば、勇払の方にシェアしてあげた方がいいのではないかと思います。ですが、いかがでしょうか。

(総務企画課長) 先に義務教育学校として開校した植苗小中学校の学校経営評価やそのあたりでは、義務教育学校としてどうなったかという部分について確認できてお

りませんので、そのあたり情報収集しまして、プラスとなってる部分やマイナスにな
ってる部分をこちらもしっかりと受け止め、保護者の方や地域、学校に下ろしてです
ね、そういう知見を活かしてより魅力ある学校づくりというものに活かしていきたい
と、そのように努めてまいります。

(高橋委員) 1点だけ確認させていただきたいのですが、小中学校の特に令和6年
度と12年度、まあ6年後ということで、恐らく出生数から考えた中での人数が書か
れていて、それ以降はもちろん生まれていないから分からないというところではあり
ますが、まずは学級数が5学級から4学級になるというところは恐らく最小単位の、
二学年を一つのクラスとして受け取る、最小クラス単位というのでしょうか、そうい
うのが決まってるのかどうかというのと、その後を考えた時に、学校を作ったけれど
子供が実際いなかったら、ということをももちろん考えられなくてはならないというこ
とで、その辺も考えていただいているかと思うのですが、現在の中で考えてる状況を、
先ほどのクラス数のことも含めて教えていただけますか。

(総務企画課長) 最小の学級数となりますと、複式学級がですね、16人以下で他
学年と一緒にいる。ただ、小学校1年生と中学生は他学年で8名以下の場合に複式学
級となるということもございまして、この後、来年度勇払小学校入学者が4名の予定
と聞いておりますので、そういった状況が続けば最小で複式学級が3つ発生するとい
うことで、小学校でいくと3学級になってしまうという可能性もございまして。こうい
った部分から、学校の整備なども児童生徒数や、クラス数に応じて整理をしていかな
くなくてはならないと考えてございまして、3学級になりますけれども、地域に必要な学校と
して存続すると決定しておりますので、少ない児童生徒数の中でも魅力ある学校とい
うものを作っていけたらと考えているところです。

(高橋委員) ありがとうございます。先ほどの質疑でも出ましたが、恐らくそうい
う地域はこれからますます増えていくでしょうし、逆に魅力ある学校を作ることによ
って他地域からの転校といいますか、その学校だからいいよねとか、そういうシステ
ム的なものも今後いろいろ出てくるかと思うので、新しく義務教育学校になる過程の

中における成功事例のようなものを、全国でも事例があるかと思しますので、そういうことも調べていただいて、地域において発信をしていただくとともに理解が深まっていくのかなと思しますので、もしあれば考えていただければと思います。
(福原教育長) 今の高橋委員とのやり取りで、複式学級の説明がよく理解できなかったのですが、その複式学級の基本をもう少し分かりやすく説明してもらえますか。
(総務企画課長) 人数の話になってしまっていますが、2学年合わせて16人以下の場合は一つの学級として編成するというのがございまして、それが複式学級となっております。例えば小学校1年生と2年生の場合ですが、1年生がいることによって、少しその人数が手厚くなるといいますか、1年生と2年生合わせて16名ではなく8名以下になった場合は、1、2年生も一つの学級となります。中学校に関しては、すぐ上すぐ下の学年と合わせて8名以下になりますと、二つの学年が一つの学級として編成されるという、複式学級となっております。
(高橋委員) この令和12年の小学校1、2、3年生は足すと16なので、これがもしかしたら一つの複式学級になってしまうということですか。
(福原教育長) 3学年で一つの学級になることもあるのですか。
(総務企画課長) 3学年はないです。
(福原教育長) 2学年が基本ということですね。
(教育部斎藤次長) すごく分かりにくい制度なのですが、令和12年の数値で見ますと、1、2年生は足して14人と16人以下ですが、1年生を含む場合は8人以下で複式学級になるため、この場合は8人以上なので1、2年生は単独になります。
3年生と4年生は足しても16人以下なので、一つの学級になります。3、4年生が1学級で5、6年生も16人以下なので1学級です。
(福原教育長) 学級数4というのは1、2年生がそれぞれ1学級になるからですね。2、3年生で一つという考え方はないのですか。
(教育部斎藤次長) 2、3年生で一つという組み方もありますが、そうすると6年生が1学級と少なくなるので、通常は1、2年生を単独にして3・4年生、5・6年

生というふうな複式にするということになります。
(福原教育長) 中学校も同じ考え方で、足すと17になるので3クラスになると。
資料に記載されているのは現状の人数なので将来どうなるか分からないですが、基本そういうルールということですね。
(教育部斎藤次長) 樽前小学校ですとかは基本3学級しかなく、1・2年生、3・4年生、5・6年生の3学級というような編成になってます。
(福原教育長) 現状の認識としてはよろしいですか。
私から1点。説明の中で義務教育学校にすることとか、決定しているという言い方をされてましたけど、前の時も聞きましたが決定のプロセスがまだ理解できていないんです。前回は義務教育学校の方向で検討することを決定した。方向で検討するから、検討なり委員会の質疑等によってはそれが変更となる可能性もあったと思ってくださいね。教育委員会で義務教育学校でない方がいいと結論が出れば、それは変更になる。それが今日なのかなと思っています。
前回この話をしたのは何月でしたっけ。2月か3月から地域説明入るのからからでしたか、今回地域プランが出てきたでしょう。これで説明する説明を今受けた訳ですが、案の中で義務教育学校とすると初めて明記されていて、これはまだ案なので今議案として受けている訳ですね。仮にこの案が承認となったら、今日をもって義務教育学校とする方針を決定したと受け止めていいですか。
それと、これからこの案を基に地域に説明に入るとは思いますが、義務教育学校とすることが市教育委員会として決定したという前提で地域に入るのか。前回はその方向で検討するというので地域に入りましたよね。その後に当然、総合教育会議などで金澤市長ともこの話になるんでしょうけども、どこが義務教育学校とする決定のタイミングなのか。それが申し訳ない、いまだによく分かっていない。
(教育部斎藤次長) 8月の教育委員会で義務教育学校の方向で検討するというような決定をいただいて、その上で検討した結果がこれなので、今回この案が通れば義務教育学校にしますという決定で地域に説明に行くことになります。

(福原教育長) 教育委員会としては、義務教育学校とする決定を今日すると。地域に説明をして何を言われても、もう1回検討しますとはならないという訳で、様々な質問に対して答えながら理解を求めていくこととなりますね。それは議会もそうですし、市長とは総合教育会議があるので別ですけど、今日は本当に重要なポイントと思っ
っていいのですね。
(教育部斎藤次長) はい。地域にも今まで1年、2年かけて十分説明していますし、前回の8月の時の報道にも出ていて、義務教育学校で行きましょうという方向性はどう見えてるので、十分とは言えないかもしれませんが、ある程度理解いただいていると考えております。
(福原教育長) このスケジュールで行けばこれから住民説明会が予定されてるので、今度は8月と違う言い方になると思うんです。もう今日で決定する訳ですから。各委員から質疑、指摘があったように、例えば、まあ植苗はもともと小中学校だったかもしれないですけど、義務教育学校としてスタートしたという事実はあるので、植苗の好事例ですとか、佐藤委員からもありましたけど、当然メリット載せたらデメリット載せない駄目ですよね。そういう並記ですとか、前回説明会の出席者が100%ではないので、今回初めて来る人もいるかもしれないので、前回も説明しましたが、なんて言い方をしないで、少しでも不安を解消といいますか、不安を与えないような丁寧な説明をしてほしいと思います。
他にになにかございませんか。質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。なお、一部修正意見が入っていますのでよろしくお願いします。

議案第2号 教育財産の活用について
(生涯学習課長) —教育財産の活用について説明—
(福原教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
もともとあったところの周辺は民地ですか。
(生涯学習課長) そうです。西側がとませいが所有する土地で駐車場がほとんどになります。
(福原教育長) 北側の、少し色が変わってる所は建物ですか。
(生涯学習課長) それもまた別の土地になっています。
(福原教育長) 要は民地ですね。旧土地の大きさを坪数にするとどれくらいになりますか。
(生涯学習課長) おおよそ383坪ぐらいですかね。
(福原教育長) 結構な大きさですね、ありがとうございます。
他になにかございませんか。質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声。)
(福原教育長) それでは、議案第2号は原案どおり決定いたしました。
6 報告・協議
報告(1) 教職員の事故に関する処分について
報告(2) 新市長への課題レクチャーについて

(福原教育長) 報告第1号についてですが、人事案件であること、また、報告第2号については、政策形成に関わり未確定な部分も含むことから、教育委員会会議規則第21条の規定により秘密会とし、審議したいと思いますがよろしいでしょうか。
(一同「はい」の声)
(福原教育長) それでは報告第1号及び第2号を秘密会とすることに決定いたしました。関係者以外は退席をお願いいたします。
7 その他
(福原教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。
(一同「なし」の声)
8 委員会閉会の宣言 (福原教育長)・・・15時54分
以上のとおり会議の概要を記録し、その相違無いことを証するためここに署名する。